



地上に不気味な口を開けている三川鉞の坑口。ここから闘いの炎を燃え上がらせよう!

# 新年文芸

## 三池の歴史に 忘却はない

宮浦支部 中山和正

三池の歴史は、  
あたらしい年への  
くれないの旗を  
かざろう

忘却とは  
忘れ去ることなり

どんなに年が  
かわろうと

三池の歴史に  
忘却はない

新しい年を  
迎えたとき

過ぎ去りし年を  
忘れ去ることが  
どんなに

屈辱の歴史が  
三池の仲間が  
知っている

昭和三十八年十一月九日  
ガス爆発

昭和四十二年九月二十八日  
自然発火

そのために  
とれだけの仲間が

いのちを奪われ  
とれだけの仲間が

犠牲になつたかを  
忘れ去ることが  
どんなに

涙も枯れたあついで  
つめたくなつた遺体を  
どんな気持ちで  
だきしめたことかを

父ちゃんを  
兄ちゃんを

一家の大黒柱を  
奪つた三井鉞山への  
怒りにふるえる  
こぶしをつきつ

歯をくしばいて  
坑底にすわり込んだ  
かあちゃん達のことを  
忘れ去ることが  
どんなに

年がかわろうと  
CO患者の身体から  
COが抜けでる  
わけではなし

四年半を流動食で  
ベッドで横たわる  
高島青年が  
生きるこの尊さすら  
自分で感ずることが  
できないという事実を

保安第一と叫びながら  
一寸したとばかりと  
みのがしてはいないか  
自分のまわりを  
みつめてみよう

人間の皮をかぶつた  
奴等が そのすきを  
どんなに  
利用してきたか  
生命を奪い  
COでむしばみ  
今また  
いのちを奪おうと  
するとき

SMはドンドン  
掘って下さう……と  
うたふく奴等が  
何をしたか  
雀の涙ほどの  
ポナス  
五万二千三百円  
これが史上最高の  
ポナスだと  
ホザキわがる  
何が史上最高だ  
こんな奴等が  
のさばり返る  
三井鉞山

生きてゐる尊さを  
生きている偉大なことを  
みんな もう一度  
考えてみよう  
口では  
忘れ去ることが  
どんなに



## 「くらし と共に」

本所支部 山下みのる

落書きに幼き頃を壁に見る  
無遅刻無欠勤重役にもなれず  
正真に生きるへ政治邪魔をする  
照り降りる表情がある鬼瓦  
先生もフラフラ無理なスケジュール  
幸運へ向いた話しが甲高い  
来る人が来て落着いた面会日  
嫁さんが乗るぞと車窓遠慮なし  
いい年をしても医者にはしかられる  
銭湯声のこもりつつ長話

今もなお  
人間らしい誠意さえ  
示さない  
こんな奴等を  
この世から  
葬り去る日まで

ヤマに生き抜く  
父ちゃん達の  
ふしくれたった手と

## 真実を

四山支部 岩下二三男

また  
かあちゃんたちまでも  
閉じこめた会社  
寒風吹きこむ  
せまう苦しむ事務所に  
メンをも食わせず  
押しこめてしまった

手が動かなくなり  
足が地をふめなくなり  
口がきけなくなった屍を  
抱かせて  
遺族にし  
その人々は  
おかゆを食べている  
その気持ちがわかるか  
責任の二片すら

怒りにもえて  
こぶしをきぎった  
かあちゃん達の手で  
三池の空に  
あたらしい年への  
くれないの旗を  
かざろう

短歌  
抵抗  
宮浦支部  
平田光男

## 短歌



## 抵抗

宮浦支部  
平田光男

停年めめせられた会社の手先  
「社宅を出ろ」の葉書手に泣く  
人間の言葉教える座りこみ木枯  
に負けず膝めくめめめ  
美佳ちゃんを無情に押しこめ鬼  
ども奴等が三池の火燃え  
胸に名あり不当言切りに燃える  
怒り三人の仲間団結して立つ  
本社前の座りこみに今日もま  
た妻は私に寝坊するなという

「核アレルギー」を脱却せよ、と  
いうのが自民党の大旗だ——福  
田自民党幹事長がこう語りまし  
た。アレルギーとは「種々な物質  
の注射・摂取などにより体質が変  
化し、その物質に対して正常と異  
なった過敏な反応を呈するに至る  
こと」(広辞苑)。つまり、日本  
国民の根強い核兵器反対の世論は  
「異常」だから「正常」にして、  
核兵器に「過敏な反応」を示さな  
らうにしようというのです。  
日本国民の核兵器反対の心は三  
度にわたるその被害に根ざした  
極めて正常な世論。アレルギーで  
はありませぬ。この「核アレルギ  
ー脱却論」は、佐藤首相による  
「防衛意識の高揚」の強調「沖繩  
核つき返還論」などとともに、こ  
んどの日米共同声明にもとづく核  
安保体制への世論的作戦の一  
つです。

## 坑内珍話

### 短かいスゲと 長いスゲ

▼五十卸左二片は、一  
カ月余りも岩粉散布をしてい  
ない。八日に一回散布す  
る(会社の保安規程第百四  
十八条の一項)ようになって  
いるので、仲間が永野係員に  
質問した。「いつ散布する  
のか」と。  
永野係員は「ベルトを短縮  
してからスゲ散布する」と回  
答した。  
ところがベルト短縮後も、

「永野係員はベルト短縮後  
スゲ散布するといっていたが  
いつ散布するのか?」  
と重ねて抗議。ところがそれ  
に平山係員の珍回答——「ス  
ゲにも、短いスゲと長いスゲ  
がある」。  
気はたしかかと一同憤激—  
「スゲはスゲだ。スゲ散布せ  
よ」と強く抗議。  
(宮浦支部常一審取場新聞  
きずな、四号から)

## 俳句

四山支部  
清本はるき

貯炭はみだす枯野の海は蒼き増  
す  
北爆やます師走の風が身にしみ

【KNA】